

2020年度 学校自己評価シート

認定こども園こどもむら 栗橋さくら幼稚園

目指すこども園像	<ul style="list-style-type: none"> こども達に未来を切り拓く能力を育むこども園 保育者も共に学び、成長していくこども園 地域と協働しながら、子ども子育て中心の街づくりを目指すこども園
----------	---

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 認定こども園教育保育要領改訂に伴い、保育課程を見直し、未来を切り拓く力を育む。 保育に携わるすべての職員が学び合い、子ども達と共に成長する組織を目指す。 地域と協働し、子育ての環境を広げていく。 保健衛生及び安全管理に取り組み、安心安全な保育環境に努める。
------	---

達成度	
A	ほぼ達成（8割以上）
B	概ね達成（6割以上）
C	改善必要（4割以上）
D	不十分（4割未満）

学校自己評価				
年度目標			年度評価（令和3年2月25日 現在）	
番号	現状と課題	評価項目	取組み状況	評価項目の達成状況
1	認定こども園教育保育要領改訂に伴い、保育課程を見直し、生きる力や未来を切り拓く力を再考して、指導計画につなげていく。保育環境の充実をはかる。	全体的な計画・保育計画の見直し	食と体力に重点をおいた全体的な計画の見直しをしている。日々の保育をエピソードや可視化して記録をとるようにし、子どもの成長・子ども理解が深まるよう努めている。	毎年同じやり方ではなく、保育の質の向上を目指して、今の子どもたちに合わせた保育ができた。
		物的、人的保育環境の改善	朝の時間はクラスごとに保育するのではなく、学年ごとに造形・運動・食育などの環境を作り、自分たちで考え遊べる環境を準備するようにしている。栄養士、美術専門職員も一緒に計画することで専門的知識も伝わる。	専門的知識と保育を共有させ、本物に触れる機会が多くなった。
2	職員研修の充実と働き方の改善をはかる。保育教諭だけでなく、保育に携わる全職員が学び合える環境をつくる。	職員研修の充実	保育目標を達成する為に、職務に必要な知識や技術の修得ができる研修や園内研修を継続的に取り組む。クラスに1台パソコンを準備しリモートでも研修が受けられるように準備をした。	保育アドバイザーの先生と定期的にリモートで研修を行った。支援学校の先生にも来てもらい、特別支援の研修にも力を入れることができた。
		働き方の改善	フリー職員を配置し、働きやすいシフトを作ることに努める。有給消化率はほぼ100パーセントである。	有給消化は100パーセント。余裕をもった保育教諭の配置が出来ている。
3	地域と連携しながら、在園児に関わらず、子どもを安心して子育てられる環境を目指す。子ども・子育て関係の情報発信や地域貢献を行う。	地域子育て支援の充実	新型コロナウイルス感染対策のため、今年度は園庭開放は中止。一時預かりは人数を制限して1日8人までとして行う。にじいろのおうち（入園前の2歳児専用支援センター）を利用してほしいスムーズな入園ができるように努める。	にじいろのおうちを利用することで、入園が決定した子同士で関わる機会が増え、未就園児クラスもスムーズに参加できている。
		小学校連携	5歳児は栗橋小学校まで歩いて行き、小学生と交流をし、小学校入学に向けた体験をする。公開保育を行い、小学校の先生に園内の参観・意見交流をしていただき、子どもたちの生活を理解してもらおう。	コロナの影響で公開保育は中止。小学校へは歩いて行き、校内を見学させていただく予定である。
4	常に子どもの安全に目を配り、遊びの中でのリスクの軽減や遊具の安全点検・危険防止に努める。外国籍の園児が増え、多様な環境をつくる。	災害対策・安全管理	地震や火災などを想定した避難訓練は継続的に月1回実施。水害訓練では栗橋北彩高校さんの屋上まで避難をする。また、非常食、避難準備物はどのようなものが良いのか見直しを実施する。AEDの使い方講習・バスの安全対策にも力を入れていきたい。	11回の訓練は実施できた。バスも事故なく安全に運行できた。AEDの使い方講習はコロナの影響で中止。防犯を考えビデオカメラを増設した。
		保健衛生・アレルギー	新型コロナウイルス感染防止のため、マスク、非接触型体温計、空気清浄機を購入し、うがい・手洗い・消毒・検温の徹底を行っている。外国籍の保護者と連携がとれるように翻訳機を準備する。また宗教上の理由で食べられない食材等の対応をする。	園務さんに手すりやトイレなどを定期的に消毒してもらった。保護者・園児にも消毒・検温を徹底した。

学校関係者評価
実施日：令和3年2月25日
学校関係者からの意見・要望・評価等
概ね良好。今後もより一層の努力を行ってほしい。
有給消化率100%達成は評価に値する。今後は人材育成により力を注ぐこと。
小学校接続・連携に向けて、保幼小接続期カリキュラムの実践が必要。
自治会との連携した事業計画が今後も必要。にじいろのおうちもより一層充実させる。